

そう だい
総 題 「申命記に見る現代の真理」

だいじゅっ か おぼ わす
第10課 覚えよ、忘れてはならない

いとうひろし
伊藤裕史

いち あんそくにちご
1. 安息日午後

みなさんは大切なことを忘れることはありませんか。鍵をかけたかな、火を消したかな。私もだんだんと外に出たあとで心配になってもどることが多くなってきました。人はいろいろなことを忘れてしまうものです。でも、本当に大切なことは忘れてはいけません。聖書には「覚える」と「忘れる」という言葉が出てきます。何を覚えなくてはいいのでしょうか。そして何を忘れてはいけないのでしょうか。今週は、神様とのことで覚えておかなくてはいいこと、忘れてはいけないことについて学びます。

に にちようび にじ こころ と
2. 日曜日：虹を心に留めること

聖書で「覚える」はいろいろな表現になっています。新共同訳聖書では「心に留める」、口語訳では「思いおこす」などの言葉が使われています。この「覚える」が最初に出てきたのは創世記9章です。ノアの箱舟のお話の最後、神様が雲の中に虹を置いてくださると約束された時でした。神様は虹を見た時に私たちとの間の「永遠の契約」について思いおこすと言われたのです。しかし神様は忘れるような方ではありません。でも神様はあえて虹を置かれたのです。なぜでしょうか。人が忘れるからです。私たちが忘れてはいけないから、虹を置いてくださり、思い出すきっかけを作ってくださいました。

だから虹を見る時、皆さんは神様のことと、神様がノアと結ばれた約束、そしてその約束を神様はかならず守られることを思い出すなくてはいいのです。そして神様を信じていなくてはいいのです。

さん げつようび す さ ひび かえり
3. 月曜日：過ぎ去った日々を顧みること

申命記4章にはこの「覚える」を意味する言葉が何度も出てきます。4章でモーセは神様が約束にもとづいてされたことを伝えます。モーセは自分たちが体験したことがどんなにすばらしいことかを人々に教えようとした。エジプトで奴隷だった自分たちを神様が救い出してくださいましたこと、そのために神様がどんなにすばらしいことをしてくださいましたかを人々に伝えるのです。

皆さんは自分にそんなことが起こったら、どんなにすばらしいことを忘れるはずがないと思うでしょう。でも人は忘れてしまうのです。だからモーセはそれを伝えよう、確認しようとしたのです。体験をとおしてモーセが伝えなかった覚えておかなくてはいいことは、神様が私たちとの約束を守ってくださいましたことでした。

わたし かみさま やくそく まも
私たちが、神様が約束を守ってくださったことを忘れず覚えているならば、今度は私たちが神様との約束
まも すす
を守るところに進むことができます。

4. 火曜日：注意して、……忘れず

モーセは神様との契約について「注意して」、「忘れず」、それを「語り伝えなさい」（申命記4：9，23
— 24）とすすめています。私たちは大切なことをしっかり覚えておくことが必要です。創世記で蛇に答えた
エバのように、大切なことは“だいたいこんなことだろう”ではいけないのです。だから何度も注意して、何度も
かくにん えきいん ゆび かくにん み
確認しなくてはならないのです。駅員さんがひとつひとつ「指さし確認」をしているのを見たことはありませんか。
たいせつ わたし おな ただ おぼ
大切なことであれば、私たちもそれと同じようにしないとはいけません。そうしないと正しく覚えることができな
わす わす かみさま やくそく まも
くなり、忘れてしまうのです。忘れてしまえば、神様との約束をきちんと守ることができなくなるのです。

それだけではありません。神様との契約は、神様と人との間の契約です。神様と私だけでなく、愛する人
かんけい みな まわ ひと ほうほう あい ひとびと かみさま
にも関係しています。だから皆さんにとっても、周りの人にとってもいい方法があります。愛する人々に神様の
かた つた つた べんきょう おな なら おし
ことを語り伝えるのです。伝えることがあるのです。勉強をするときと同じです。習ったことを教えあうことで、
せいかく おぼ つた おぼ みな かみさま
あなたも正確に覚えられます。伝えてみんなで覚えておくほうがよいことがたくさんあります。ぜひ皆さんも神様
つた
のことを伝えてください。

5. 水曜日：食べて満足する

いつも神様は私たちを守ってくださいます。聖書を見ると神様はイスラエルの民たちも守っておられまし
かみさま わたし まも
た。でも民たちは守られて安心した生活をする中で、神様のことを忘れてしまうこともあるのです。
たみ まも あんしん せいかつ かみさま わす
皆さんはどうですか。なにか不安なことがあったり、お願いしたいときには、神にお祈りするでしょう。でも豊
みな ふあん ねが かみ いの ゆた
かで、なに不自由なくすごすときに、私たちは満足してしまい、他のことに心うばわれることはありませんか。
ふじゆう わたし まんぞく ほか こころ
そんな時神様のことを忘れてしまい、神様からはなれてしまうのです。だからモーセは恵まれているときこそ危険
ときかみさま わす かみさま めぐ きけん
だと言っているのです。あたたかい食事があること、よく眠れること、話せる人がまわりにいること。これは神様
い しょくじ ねむ はな ひと かみさま
の守りがあるからなのです。こんな時大切なのは、神様のことを忘れるのではなく、神様に感謝することです。
まも ときたいせつ かみさま わす かみさま かんしゃ

6. 木曜日：奴隷であったことを思い起こしなさい

モーセやイスラエルの人々の「出エジプト」の出来事は、神様のことを知る大切な体験でした。イスラエルの
ひとびと しゅつ できごと かみさま たいせつ たいけん
人々はそれを忘れないために「過越しの祭」をして祝ったのです。人々は「過越しの祭」をすることで、自分た
ひとびと わす すぎこ まつり いわ ひとびと すぎこ まつり じぶん
ちが奴隷として苦しみのなかまにいたこと、そして神様がそんな自分たちを奴隷から救い導きだしてくださったこと、
どれい くる かみさま じぶん どれい すく みちび
そのために神様が大きな犠牲・苦しみをはらわれたことを忘れないようにしたのです。
かみさま おお ぎせい くる わす

これは、イスラエルの人々だけに必要なことではありません。私たちも罪の奴隷として苦しみのなかまにいま
ひとびと ひつよう わたし つみ どれい くる
た。そしてイエス様が「私たちの過越しの小羊として」血を流してくださったことで、私たちも罪の奴隷から自由
さま わたし すぎこ こひつじ ち なが わたし つみ どれい じゆう
になることができたのです。これは決して忘れてはいけないことなのです。
けつ わす

これだけでなく、私^{わたし}たちは神様^{かみさま}との間^{あいだ}で忘れてはいけ^{わす}ないことをたくさん持^もっています。でも私^{わたし}たちは「過越^{すぎこ}しの祭^{まつり}」を行^{おこな}っていません。では忘^{わす}れないためにできることはな^ないでしょうか。毎日^{まいにち}聖書^{せいしょ}を読^よんだり、神様^{かみさま}のこ^こを思^{おも}ったり、神様^{かみさま}にお祈^{いの}りをし^したり、そして愛^{あい}する人^{ひと}に神様^{かみさま}のこ^こを伝^{つた}えたり。安息日^{あんそくにち}の礼拝^{れいはい}もこの働^{はたら}きをも^もっています。皆^{みな}さんも忘^{わす}れないためにできることをし^していきま^いしょう。

7. 金曜日^{きんようび}：さらなる研^{けん}究^{きゅう}

神様^{かみさま}は虹^{にじ}をかけ^かけて、私^{わたし}たちが大切^{たいせつ}なこ^こを思^{おも}い出^だすこ^こを考^{かんが}えてくだ^{くだ}さいまし^{まし}た。この虹^{にじ}が、誰^{だれ}もが見^みあげ^あげることができる空^{そら}にあるこ^こは、なん^{なん}てすばら^{すば}らしいこ^こでし^しょう。皆^{みな}さんは最^{さい}近^{きん}空^{そら}を見^みあげること^{こと}はありま^あすか。天^{てん}を見^みあげること^{こと}はありま^あすか。見^みあげれば私^{わたし}たちは神様^{かみさま}のすば^{すば}らしさを発^は見^{けん}できるの^のに、自^じ分^{ぶん}の足^{あし}もとやまわ^まりばかりを見^みていると、どん^{どん}なにすば^{すば}らしいもの^{もの}が用意^{ようい}されてい^いても、その恵^{めぐ}みをうけるこ^こはできま^ません。皆^{みな}さんはいそ^いがしい一^{いち}日^{にち}一^{いち}日^{にち}すご^ござれてい^いるでし^しょう。でもち^ちょっ^っと一^{ひと}息^{いき}つ^ついて、自^じ分^{ぶん}の足^{あし}もとやまわ^まりの人^{ひと}の富^{とみ}や栄^{えい}誉^よばかり見^みるこ^こはやめ^めて、天^{てん}を見^みあげ^あげていきま^いしょう。